



平成 20 年 5 月 21 日

各 位

株 式 会 社 研 創
代表取締役社長 林 良 一
(コード: 7939)
問い合わせ先
総 務 部 長 浦 上 忠 久
TEL 082-840-1000

平成 20 年 3 月期(連結・個別)通期の業績予想及び期末配当の修正について

平成 19 年 11 月 22 日付当社「平成 20 年 3 月期中間決算短信」において発表いたしました平成 20 年 3 月期(平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)の業績予想と期末配当予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成 20 年 3 月期連結通期予想との差異(平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)

(単位: 百万円、%)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 予 想 (A)	5,060	304	261	92
今 回 修 正 (B)	4,829	220	184	136
増 減 額 (B - A)	230	83	76	44
増 減 率	4.6	27.5	29.2	-
前 期 (平成 19 年 3 月期) 実績	4,498	216	171	159

2. 平成 20 年 3 月期個別通期予想との差異(平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)

(単位: 百万円、%)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 予 想 (A)	4,955	325	258	107
今 回 修 正 (B)	4,746	218	184	130
増 減 額 (B - A)	208	106	73	23
増 減 率	4.2	32.9	28.4	-
前 期 (平成 19 年 3 月期) 実績	4,430	221	177	128

3. 業績予想の修正理由

当連結会計年度における業績につきましては、当上半期、売上高は経済環境の緩やかな拡大基調を背景に、前年度比 13.5%増と順調に推移したため、営業利益、経常利益とも黒字転換しました。

しかしながら、下半期に入り、米国のサブプライムローン問題に端を発した金融市場の混乱や、原油をはじめとする原材料価格の高騰などから景気の先行き不透明感が高まり、加え

て、6月の改正建築基準法施行の影響が次第に表れ、一転して、ビル新築着工は大幅に減少し、サインの受注環境も期末に向かって次第に厳しい状況となりました。

このような理由により売上高は2億30百万円予想を下回り、それに伴い、営業利益は83百万円、経常利益は76百万円、当期純利益は44百万円予想を下回りました。

また、連結業績の殆どを占める個別業績につきましても、連結業績における同じ理由により、売上高は2億8百万円予想を下回り、それに伴い、営業利益は1億6百万円、経常利益は73百万円、当期純利益は23百万円予想を下回ることとなりました。

4. 期末配当金予想の修正

	中間期末	期 末	年 間
前 回 予 想	-	10 円 00 銭	10 円 00 銭
今 回 修 正	-	5 円 00 銭	5 円 00 銭
前期(平成19年3月期)実績	-	10 円 00 銭	10 円 00 銭

5. 配当金予想の修正理由

当社グループは、株主の皆様への安定した配当を継続的に実施していくことを基本方針としております。

中間期におきましては、会計方針の変更により役員退職慰労引当金を一括計上したため、当期純損失は92百万円と予想しましたが、利益剰余金の計算上10円配当は依然可能と予想しておりました。

しかしながら上記のとおり、当期純損失が予想より膨らんだため内部留保と成果配分とのバランスを勘案し5円配当とした次第であります。

以 上